

～成年後見制度を安心して使いやすいものにするために、みなさんの身近で活動します。

ほっと

NPO法人 ほっと会報

〒590-0048

堺市堺区一条通19-13 上堺ビル2階

TEL 072-228-3011 FAX 072-228-3012

E-mail npo-hot@nifty.com

NO. 71 発行: 2025年(令和7年)6月3日

5・6月
合併号

家族の願いを実現する
ために身近で活動します

NPO法人ほっと

第19回通常総会 開催のご案内

◆日時: 6月20日(金)10時30分~12時30分

◆場所: サンスクエア堺 第1会議室

会員以外の方も参加できます
で、成年後見制度に関心のある
方は、是非ご参加ください。



現実と背景が浮き彫りに
制度利用が進まない
そこで、改めて浮き彫りになつ
たのは、高齢者の場合、第三者
による成年後見制度利用は進
んでいますが、知的障がい者の場
合、なかなか進んでいないとい

さわやかな春も過ぎ去り、もう暑い夏の訪れですが、お変わりはありませんか？ 健康には十分留意して元気に暮らしていきたいと思います。さて、6月20日は、NPO法人ほっとの通常総会です。この一年間の事業活動を一緒に振り返り、新年度へ向けての計画を定め、みなさんと一緒に展望を持つて事業計画・活動を推進していくたいと思います。沢山の方々のご参加と皆さんからの積極的なご意見をお願いします。

昨年、アンケート調査実施 そうした中、私たちは、昨年度、障がい当事者・ご家族の実情や生の声を今後の私たちの活動に役立てたいと考え、「成年後見制度に関するアンケート調査」を行いました。「協力頂いた皆様に、改めてお礼を申し上げます。頂いたアンケートを集め、分析の上、「結果報告書」(24年8月)としてまとめ、「報告集会」を開催しました。

さわやかな春も過ぎ去り、もう暑い夏の訪れですが、お変わりはありませんか？ 健康には十分留意して元気に暮らしていきたいと思います。さて、6月20日は、NPO法人ほっとの通常総会です。この一年間の事業活動を一緒に振り返り、新年度へ向けての計画を定め、みなさんと一緒に展望を持つて事業計画・活動を推進していくたいと思います。沢山の方々のご参加と皆さんからの積極的なご意見をお願いします。

成年後見制度の大きな節目 現在、成年後見制度は大きな節目にあります。政府は、法制審で、「後見人等が円滑に交代可能に」や、「代理権の範囲を見直す」等の5点で民法改正の方向だとされています。

昨年、アンケート調査実施

ほっとは、成年後見制度の利用は、「親亡き後」の準備という視点だけではなく、成人として、「暮らし」を確立していくために、福祉だけの視点ではなく、社会を見据えた支援を準備していくためにも後見制度の利用は必要だと考えています。

第三者評価は、福祉サービスを行う事業者が事業運営における問題点を具体的に把握し、サービスの質の向上に結び付けることができるよう、当事者以外の公正・中立な第三者機関が専門的かつ客観的な立場から事業の運営管理や提供するサービスを評価する事業です。

ほっとは、2019年に大阪府から認証を受け、毎年5件ほど事業評価を行っています。



ほっとHPのQRコード

6月20日 成年後見制度&福祉サービス第三者評価の推進めさし ほっと通常総会へのご参加を！

ほっと開設しました

福祉サービス第三者評価事業の体制整備を！

ほっと設立20周年
今年は、ほっとが設立して20年になります。皆さんと力を合わせて、希望ある未来へ向けて、新たな一步を踏み出す年

う現実があります。その背景には、「まだ、親が元気だから」「兄弟姉妹がいるから」。また、「後見人には費用がかかる」「本人のことを本当に守ってくれるのか?」等の不安・不信があることが浮き彫りになりました。

ほっとは、成年後見制度の大きな節目における問題点を具体的に把握し、サービスの質の向上に結び付けることができるよう、当事者以外の公正・中立な第三者機関が専門的かつ客観的な立場から事業の運営管理や提供するサービスを評価する事業です。

青空ホーム開所!

2025年3月21日、会福祉法人コスマスの25番目となるグループホームが堺市北区に誕生しました。ほつとも入居された方の後見人として当竣工式に参加させていただきました。

青空ホームが竣工！

この思いが伝わる素敵な竣工式となっていました。

ご家族と連携して準備

このホームには、ほつどが後見人を受任している方も入居されます。



“入所施設の待機者2万人” 家族同居も含め、社会資源が決定的に不足

田中智子先生は、障害福祉研究の第一線で精力的に活動されており、この間「暮らしの現状」をNHKと共に調査され、実態を明らかにされ、それを基にしたお話をしました。



某事件の裁判傍聴から

問題は、社会資源が決定的に不足なのです。
—NHKとの共同調査では、入所施設15.5%、グループホーム(以下、GH)16.7%、在宅は67.8%です。で必要な社会資源(ショートステイなど)はあるのか?というと、ショートステイの定員率※は52%なのです。ロンジショート(ショート・ステイの延長)は、暮らしの場ではない。転々とする仮住まいでしかありません。まだこれからの人々の思ひもろを話されてしまいました。成まかろったがけとうたらどうれい?だからなかつたら問かのよう成まかろつた。一體入れなかつた。

暮らしの場も在宅を支える社会資源も決定的に不足!

社会に求められているのは、目指す社会へ向けた整えるとともに、現実に求められていることを疎かにしてはならないと思います。今度の調査で「入所施設の待機者2万人」という現実が象徴的です。
人期を迎える子どもの介護には、年老いた親にはもはや限界です。田中智子先生は、障害福祉研究の第一線で精力的に活動されており、この間「暮らしの現状」をNHKと共に調査され、実態を明らかにされ、それを基にしたお話をしました。

私は、「在宅を支える資源も、暮らしの場も決定的に不足している」。
—多様な暮らしの場を整える必要がある」との指摘です。
最後に、先生は、「親のケアから、社会のケアに“移す”のでなく、“重ねる”(親+社会)」視点が必要がある」との指摘です。

最も最も、「成りなった子どものことに対する責任を持つのは一体誰なのか」が鋭く問い合わせられています。

来定員率(在宅の知的障害児・者数に対してショートステイがどの程度整備されているか)を示したもの。